

第23回日本生殖心理学会学術集会

P-2

東京、2025. 1. 31-2. 1

不妊治療と仕事の両立を支援するリーフレットの活用と評価

—看護師・患者双方の視点から—

氏名：大内 美紀¹⁾ 松山 由紀子・皆吉 田津子・中岡 義晴・森本 義晴²⁾

1) IVF なんばクリニック

2) HORAC グランフロント大阪クリニック

【目的】

2022年の不妊治療保険適応開始以降、体外受精を受けながら働く患者が増加している。治療は通院回数が多く、体調変化を伴うため、仕事と両立が困難な場合がある。当院では体外受精開始前の患者に対し、治療スケジュールや来院頻度、体調変化をまとめたリーフレット「不妊治療と仕事の両立をされている方へ」を配布している。本研究は患者および看護師双方の視点からリーフレットの活用状況と有用性を評価することとした。

【方法】

対象は、当院で体外受精を開始した患者231名と看護師21名である。Google フォームアンケートを無記名で実施し、患者には理解度、安心感、職場での活用状況を、看護師には説明効果、統一性、質問対応の容易さを尋ねた。定量データーは記述統計で分析し、自由記載は質量的に分析を行った。

【研究デザイン】

本研究は患者および看護師を対象とした量的質的記述的研究であり、アンケート調査により現状と有用性を把握した。

【結果】

看護師は全員がリーフレットを使用しており、体外受精ステップアップ前の情報提供では、76.2%が必ず活用していた。説明時間の短縮や内容の統一、質問対応の容易さを実感しており、看護説明者の使用率も90%以上であった。患者の認知率は57.4%で、その90.9%が治療理解が容易になり、53.1%が職場説明に役立つと回答した。一方で看護師の配布方法や説明タイミングにばらつきがみられた。

【考察】

リーフレットは患者の治療理解を促進し、職場調整の一助となった。また、看護師にとっても説明の標準化・効率化に有用であった。今後は配布時期や説明方法の統一、電子化による利便性向上が課題である。

【結論】

体外受精開始における患者用リーフレットは、患者・看護師双方で有用であり、仕事と治療の両立支援に寄与することが示唆された。